

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

## 前立腺癌治療剤

# ビカルタミド錠 80mg「JG」

## Bicalutamide Tablets

剤形	錠剤（フィルムコーティング錠）
製剤の規制区分	劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	1錠中 日局 ビカルタミド 80.0mg 含有
一般名	和名：ビカルタミド（JAN） 洋名：Bicalutamide（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2009年7月13日 薬価基準収載年月日：2009年11月13日 発売年月日：2009年11月13日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日本ジェネリック株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日本ジェネリック株式会社 お客様相談室 受付時間：9時～18時（土、日、祝日を除く） TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172 医療関係者向けホームページ： <a href="https://medical.nihon-generic.co.jp/medical/">https://medical.nihon-generic.co.jp/medical/</a>

本IFは2022年1月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

# IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更に合わせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する PMDA ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

## 2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### [IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

#### 【IF の作成】

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

#### 【IF の発行】

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

### 3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」に掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」で確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

# 目次

I. 概要に関する項目	1	13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	9
1. 開発の経緯	1	14. その他	9
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1		
II. 名称に関する項目	2	V. 治療に関する項目	10
1. 販売名	2	1. 効能又は効果	10
(1)和名	2	2. 用法及び用量	10
(2)洋名	2	3. 臨床成績	10
(3)名称の由来	2	(1)臨床データパッケージ	10
2. 一般名	2	(2)臨床効果	10
(1)和名(命名法)	2	(3)臨床薬理試験	10
(2)洋名(命名法)	2	(4)探索的試験	10
(3)ステム	2	(5)検証的試験	10
3. 構造式又は示性式	2	1)無作為化並行用量反応試験	10
4. 分子式及び分子量	2	2)比較試験	10
5. 化学名(命名法)	2	3)安全性試験	10
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	4)患者・病態別試験	10
7. CAS登録番号	2	(6)治療の使用	10
III. 有効成分に関する項目	3	1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)	10
1. 物理化学的性質	3	2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	10
(1)外観・性状	3		
(2)溶解性	3	VI. 薬効薬理に関する項目	11
(3)吸湿性	3	1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	11
(4)融点(分解点)、沸点、凝固点	3	2. 薬理作用	11
(5)酸塩基解離定数	3	(1)作用部位・作用機序	11
(6)分配係数	3	(2)薬効を裏付ける試験成績	11
(7)その他の主な示性値	3	(3)作用発現時間・持続時間	11
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3		
3. 有効成分の確認試験法	3	VII. 薬物動態に関する項目	12
4. 有効成分の定量法	3	1. 血中濃度の推移・測定法	12
IV. 製剤に関する項目	4	(1)治療上有効な血中濃度	12
1. 剤形	4	(2)最高血中濃度到達時間	12
(1)剤形の区別、外観及び性状	4	(3)臨床試験で確認された血中濃度	12
(2)製剤の物性	4	(4)中毒域	13
(3)識別コード	4	(5)食事・併用薬の影響	13
(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	4	(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因	13
2. 製剤の組成	4	2. 薬物速度論的パラメータ	13
(1)有効成分(活性成分)の含量	4	(1)解析方法	13
(2)添加物	4	(2)吸収速度定数	13
(3)その他	4	(3)バイオアベイラビリティ	13
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	(4)消失速度定数	13
4. 製剤の各種条件下における安定性	4	(5)クリアランス	13
5. 調製法及び溶解後の安定性	6	(6)分布容積	13
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	6	(7)血漿蛋白結合率	14
7. 溶出性	6	3. 吸収	14
8. 生物学的試験法	9	4. 分布	14
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	9	(1)血液-脳関門通過性	14
10. 製剤中の有効成分の定量法	9	(2)血液-胎盤関門通過性	14
11. 力価	9	(3)乳汁への移行性	14
12. 混入する可能性のある夾雑物	9		



(4)髄液への移行性	14	2. 毒性試験	20
(5)その他の組織への移行性	14	(1)単回投与毒性試験	20
5. 代謝	14	(2)反復投与毒性試験	20
(1)代謝部位及び代謝経路	14	(3)生殖発生毒性試験	20
(2)代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の 分子種	14	(4)その他の特殊毒性	20
(3)初回通過効果の有無及びその割合	14	X. 管理的事項に関する項目	21
(4)代謝物の活性の有無及び比率	14	1. 規制区分	21
(5)活性代謝物の速度論的パラメータ	14	2. 有効期間又は使用期限	21
6. 排泄	14	3. 貯法・保存条件	21
(1)排泄部位及び経路	14	4. 薬剤取扱い上の注意点	21
(2)排泄率	14	(1)薬局での取扱い上の留意点について	21
(3)排泄速度	15	(2)薬剤交付時の取扱いについて (患者等に 留意すべき必須事項等)	21
7. トランスポーターに関する情報	15	(3)調剤時の留意点について	21
8. 透析等による除去率	15	5. 承認条件等	21
VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目	16	6. 包装	21
1. 警告内容とその理由	16	7. 容器の材質	21
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	16	8. 同一成分・同効薬	21
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意と その理由	16	9. 国際誕生年月日	21
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意と その理由	16	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	22
5. 慎重投与内容とその理由	16	11. 薬価基準収載年月日	22
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	16	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追 加等の年月日及びその内容	22
7. 相互作用	16	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及び その内容	22
(1)併用禁忌とその理由	17	14. 再審査期間	22
(2)併用注意とその理由	17	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	22
8. 副作用	17	16. 各種コード	22
(1)副作用の概要	17	17. 保険給付上の注意	22
(2)重大な副作用と初期症状	17	X I. 文献	23
(3)その他の副作用	18	1. 引用文献	23
(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異 常一覧	18	2. その他の参考文献	23
(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有 無等背景別の副作用発現頻度	18	X II. 参考資料	24
(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法	18	1. 主な外国での発売状況	24
9. 高齢者への投与	18	2. 海外における臨床支援情報	24
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	18	X III. 備考	25
11. 小児等への投与	18	1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行う にあたっての参考情報	25
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	19	(1)粉碎	25
13. 過量投与	19	(2)崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通 過性	25
14. 適用上の注意	19	2. その他の関連資料	26
15. その他の注意	19		
16. その他	19		
IX. 非臨床試験に関する項目	20		
1. 薬理試験	20		
(1)薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する 項目」参照)	20		
(2)副次的薬理試験	20		
(3)安全性薬理試験	20		
(4)その他の薬理試験	20		

# I. 概要に関する項目

---

## 1. 開発の経緯

ビカルタミド錠 80mg「JG」は、ビカルタミドを含有する前立腺癌治療剤である。

ビカルタミドは、非ステロイド性抗アンドロゲン薬で、前立腺癌組織のアンドロゲン受容体に対するアンドロゲンの結合を阻害することにより、抗腫瘍効果を示す。

本剤は日本ジェネリック株式会社が後発医薬品として開発を企画し、「医薬品の承認申請について（平成 17 年 3 月 31 日 薬食発第 0331015 号）」に基づき、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2009 年 7 月に製造販売承認を得て、2009 年 11 月に販売開始した。

## 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) ビカルタミドは非ステロイド性抗アンドロゲン薬であり、血清中のテストステロン濃度を低下させずに効果を発揮する。
- (2) ビカルタミドの抗アンドロゲン活性は実質的に *R* 体によるものである。
- (3) 錠剤本体の両面に成分名、含量及び屋号を印字し、識別性を向上させている。
- (4) 重大な副作用として、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、白血球減少、血小板減少、間質性肺炎、心不全、心筋梗塞が報告されている（頻度不明）。

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

ビカルタミド錠 80mg 「JG」

#### (2) 洋名

Bicalutamide Tablets 80mg “JG”

#### (3) 名称の由来

「一般的名称」 + 「剤形」 + 「含量」 + 「屋号」 より命名

### 2. 一般名

#### (1) 和名 (命名法)

ビカルタミド (JAN)

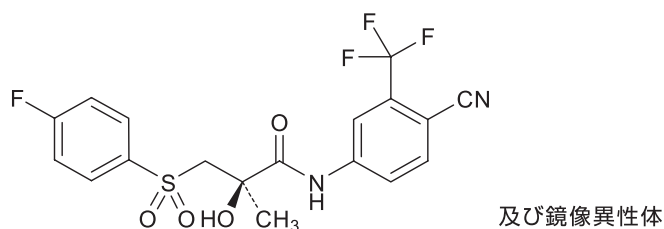
#### (2) 洋名 (命名法)

Bicalutamide (JAN)

#### (3) ステム

-lutamide : 非ステロイド性抗アンドロゲン薬

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式 :  $C_{18}H_{14}F_4N_2O_4S$

分子量 : 430.37

### 5. 化学名 (命名法)

(2*RS*) - *N*- [4-Cyano-3-(trifluoromethyl) phenyl] -3- [(4-fluorophenyl) sulfonyl] -2- hydroxy-2-methylpropanamide

### 6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

### 7. CAS 登録番号

90357-06-5

### III. 有効成分に関する項目

---

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色の粉末又は結晶性の粉末である。

結晶多形が認められる。

##### (2) 溶解性

アセトンに溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール（99.5）に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

融点：192～197℃

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

アセトン溶液（1→100）は旋光性を示さない。

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

日局「ビカルタミド」の確認試験による。

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法）

#### 4. 有効成分の定量法

日局「ビカルタミド」の定量法による。


液体クロマトグラフィー



## IV. 製剤に関する項目

### 1. 剤形

#### (1) 剤形の区別、外観及び性状

販売名	ビカルタミド錠 80mg 「JG」
色・剤形	白色の円形のフィルムコーティング錠
外形	
大きさ(mm)	直径：7.6 厚さ：4.4
重量(mg)	205.0

#### (2) 製剤の物性

該当資料なし

#### (3) 識別コード

錠剤本体に記載：ビカルタミド 80 JG

#### (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

### 2. 製剤の組成

#### (1) 有効成分（活性成分）の含量

1 錠中 日局 ビカルタミド 80.0mg 含有

#### (2) 添加物

乳糖水和物、ポビドン、デンプングリコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、マクロゴール 6000、カルナウバロウ

#### (3) その他

該当しない

### 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

### 4. 製剤の各種条件下における安定性

#### ◎ 加速試験<sup>1)</sup>

包装形態：PTP 包装/アルミピロー

保存条件：40±1℃/75±5%RH

保存期間：6 ヶ月

試験項目：性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験、溶出試験、定量試験

試験項目	性状	確認試験	純度試験	製剤均一性試験	溶出試験 (%)	定量試験 (%)
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
試験開始時	適合	適合	適合	適合	81	99.1
1 ヶ月後	適合	適合	適合	—	80	99.5
3 ヶ月後	適合	適合	適合	—	80	98.4
6 ヶ月後	適合	適合	適合	適合	81	100.1

(1) 白色の円形のフィルムコーティング錠である。

(2) 紫外可視吸光度測定法：波長 269～273nm に吸収の極大を示す。

(3) 類縁物質：個々 0.15%以下、合計 0.5%以下

(4) 含量均一性試験：判定値が 15.0%を超えない。

(5) 45 分間、70%以上（ラウリル硫酸ナトリウム溶液（1→125）900mL、パドル法、50rpm）

(6) 表示量の 95.0～105.0%

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

◎ 無包装状態での安定性試験<sup>2)</sup>

試験条件：①温度に対する安定性試験：40±2℃、3 ヶ月（遮光・気密容器）

②湿度に対する安定性試験：25±2℃/75±5%RH、3 ヶ月（遮光・開放）

③光に対する安定性試験：総照度 150 万 lx・hr/25℃/60%RH（3000lx、シャール・開放）

試験項目：性状、純度試験、溶出試験、定量試験、硬度

試験項目	性状	純度試験	溶出試験 (%)	定量試験* (%)	硬度 (kp)
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
試験開始時	適合	適合	86.2	100	9.4
①温度	3 ヶ月後	変化なし	適合	変化なし	変化なし
②湿度	3 ヶ月後	変化なし	適合	変化なし	変化なし
③光	120 万 lx・hr	変化なし	適合	変化なし	変化なし
	150 万 lx・hr	変化なし	適合	変化なし	変化なし

(1) 白色の円形のフィルムコーティング錠である。

(2) 類縁物質：個々 0.15%以下、合計 0.5%以下

(3) 45 分間、70%以上（ラウリル硫酸ナトリウム溶液（1→125）900mL、パドル法、50rpm）

(4) 表示量の 95.0～105.0%

(5) 参考値

※試験開始時を 100 とした残存率で示した

安定性の評価は「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について（答申）平成 11 年 8 月 20 日」に記載された各試験項目の評価基準に従った。

## 5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

## 6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

## 7. 溶出性

【溶出挙動の類似性】<sup>3)</sup>

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成18年11月24日薬食審査発第1124004号）」に従う。

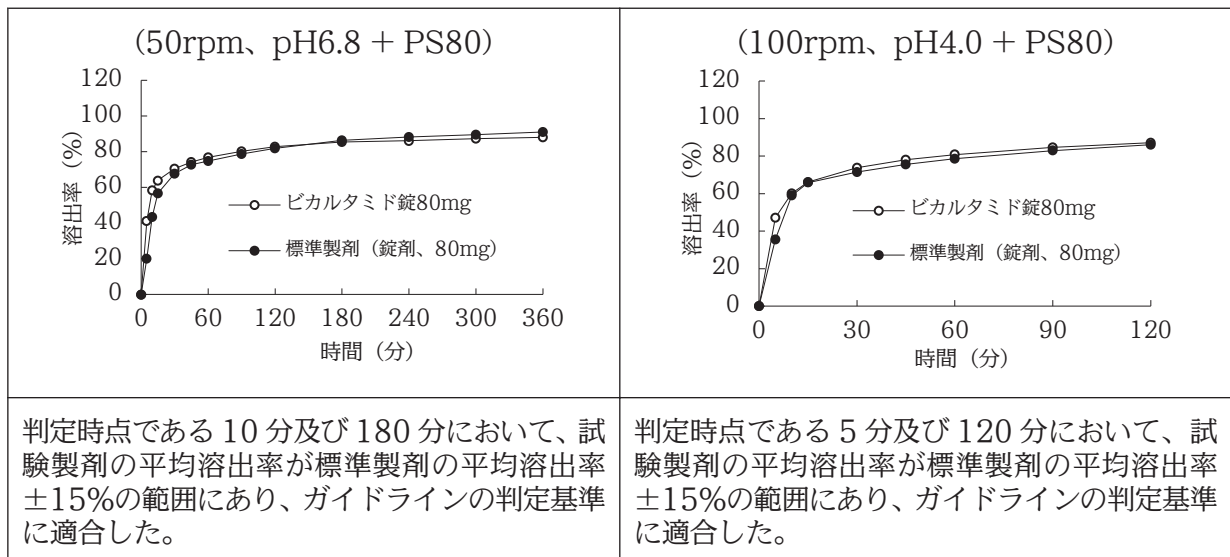
試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法（パドル法）			
試験条件	回転数 /試験液	50rpm	pH1.2	日本薬局方 溶出試験第1液
			pH4.0	薄めた McIlvaine の緩衝液
			pH6.8	日本薬局方 溶出試験第2液
			水	日本薬局方 精製水
			pH1.2 + PS80	日本薬局方 溶出試験第1液に ポリソルベート 80 を 1.0w/v%添加
			pH4.0 + PS80	薄めた McIlvaine の緩衝液に ポリソルベート 80 を 1.0w/v%添加
			pH6.8 + PS80	日本薬局方 溶出試験第2液に ポリソルベート 80 を 1.0w/v%添加
	100rpm	pH4.0 + PS80	薄めた McIlvaine の緩衝液に ポリソルベート 80 を 1.0w/v%添加	
試験液量：900mL 試験回数：12 ベッセル				
分析法	液体クロマトグラフィー			

### ・判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH1.2	標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 53 以上である。
	pH4.0	
	pH6.8	
	水	
	pH1.2 + PS80	標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±12%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 46 以上である。
100	pH4.0 + PS80	標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。
	pH6.8 + PS80	
100	pH4.0 + PS80	

・試験結果

<p>(50rpm、pH1.2)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>	<p>(50rpm、pH4.0)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>
<p>判定時点である15分及び120分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 9\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である10分及び360分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 9\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>
<p>(50rpm、pH6.8)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>	<p>(50rpm、水)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>
<p>判定時点である10分及び360分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 9\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である10分及び360分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 9\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>
<p>(50rpm、pH1.2 + PS80)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>	<p>(50rpm、pH4.0 + PS80)</p> <p>—○— ビカルタミド錠80mg —●— 標準製剤 (錠剤、80mg)</p>
<p>判定時点である10分及び120分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 12\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である10分及び240分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>



溶出挙動の類似性の判定 (平均溶出率)

回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	平均溶出率 (%)		判定
			標準製剤 (錠剤、80mg)	試験製剤 (ビカルタミド錠 80mg 「JG」)	
50	pH1.2	15	3.6	4.4	適合
		120	6.2	6.0	
	pH4.0	10	2.4	3.4	適合
		360	5.7	4.5	
	pH6.8	10	2.6	3.4	適合
		360	4.0	4.5	
	水	10	3.2	3.6	適合
		360	5.0	4.7	
	pH1.2 + PS80	10	33.9	45.8	適合
		120	75.9	77.6	
pH4.0 + PS80	10	46.4	56.3	適合	
	240	85.0	88.7		
pH6.8 + PS80	10	43.4	58.3	適合	
	180	86.4	85.5		
100	pH4.0 + PS80	5	35.6	47.1	適合
		120	86.1	87.2	

・結論

標準製剤と試験製剤の平均溶出率を比較したところ、いずれの試験条件においても「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合していた。

以上より、標準製剤と試験製剤の溶出挙動の類似性が確認された。

8. 生物学的試験法  
該当しない
9. 製剤中の有効成分の確認試験法  
紫外可視吸光度測定法（波長 269～273nm に吸収の極大を示す）
10. 製剤中の有効成分の定量法  
液体クロマトグラフィー
11. 力価  
該当しない
12. 混入する可能性のある夾雑物  
該当資料なし
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報  
該当しない
14. その他  
該当しない



## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

前立腺癌

#### 〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 本剤による治療は、根治療法ではないことに留意し、本剤投与 12 週後を抗腫瘍効果観察のめどとして、本剤投与により期待する効果が得られない場合、あるいは病勢の進行が認められた場合には、手術療法等他の適切な処置を考慮すること。
2. 本剤投与により、安全性の面から容認し難いと考えられる副作用が発現した場合は、治療上の有益性を考慮の上、必要に応じ、休業又は集学的治療法などの治療法に変更すること。

### 2. 用法及び用量

通常、成人にはビカルタミドとして 80mg を 1 日 1 回、経口投与する。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6) 治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

##### 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

---

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

フルタミド

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序

ビカルタミドは、前立腺腫瘍組織のアンドロゲン受容体に対するアンドロゲンの結合を阻害し、抗腫瘍効果を発揮する。なお、ビカルタミドの抗アンドロゲン活性は実質的に *R* 体によるものである。

なお、临床上、本剤の投与の中止により一部の患者で AWS (antiandrogen withdrawal syndrome) をみることがある。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間

健康成人男子

薬剤名	投与量	投与方法	Tmax (hr)
ビカルタミド錠 80mg「JG」	1 錠 (ビカルタミドとして 80mg)	絶食単回 経口投与	32.7±16.3

(Mean±S.D.,n=22)

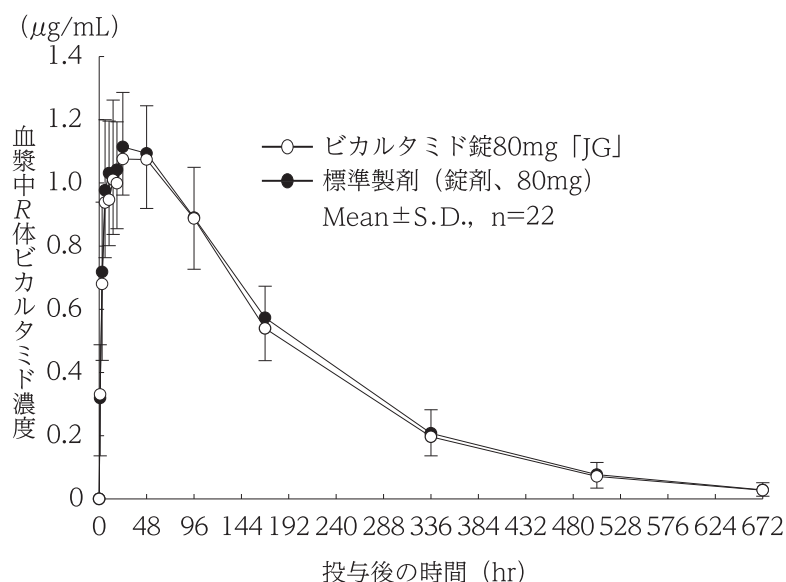
#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

##### 【生物学的同等性試験】<sup>4)</sup>

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）」に従う。

ビカルタミド錠 80mg「JG」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（ビカルタミドとして 80mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度（*R*体ビカルタミド<sup>注)</sup>）を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log (0.80) ~log (1.25) の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

注)ビカルタミドは *R*体及び *S*体のラセミ体である。活性体は *R*体ビカルタミドであることから、*R*体の薬物動態を生物学的同等性の指標とした。



<薬物動態パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-672</sub> ( $\mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$ )	Cmax ( $\mu\text{g}/\text{mL}$ )	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
ビカルタミド錠 80mg「JG」	238.41±49.33	1.17±0.18	32.7±16.3	111.3±25.9
標準製剤 (錠剤、80mg)	247.57±48.41	1.19±0.17	33.0±20.6	112.6±22.9

(Mean±S.D.,n=22)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<同等性の判定結果>

	AUC <sub>0-672</sub>	Cmax
2製剤の平均値の差	log (0.9610)	log (0.9815)
90%信頼区間	log (0.8995) ~log (1.0268)	log (0.9333) ~log (1.0321)

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 7. 相互作用」の項参照

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

健康成人男子

薬剤名	投与量	投与方法	kel (hr <sup>-1</sup> )
ビカルタミド錠 80mg「JG」	1錠 (ビカルタミドとして80mg)	絶食単回 経口投与	0.01±0.00

(Mean±S.D.,n=22)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

### (7) 血漿蛋白結合率

*in vitro* におけるヒト血漿タンパク結合率（ラセミ体）は96%であった。<sup>5)</sup>

## 3. 吸収

該当資料なし

## 4. 分布

### (1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

### (2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

### (3) 乳汁への移行性

該当資料なし

### (4) 髄液への移行性

該当資料なし

### (5) その他の組織への移行性

該当資料なし

## 5. 代謝

### (1) 代謝部位及び代謝経路

肝臓

ヒトにおけるビカルタミドの代謝は、水酸化及びグルクロン酸抱合であった。血漿中には未変化体が、尿中には未変化体のグルクロン酸抱合体及び水酸化体のグルクロン酸抱合体が、糞中には未変化体及び水酸化体が認められた。<sup>5)</sup>

### (2) 代謝に關与する酵素（CYP450 等）の分子種

*in vitro* 試験で、CYP3A4 を阻害し、またそれより程度は低いが、CYP2C9、2C19、2D6 に対しても阻害作用を示すとの報告がある。<sup>5)</sup>

### (3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

### (4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

### (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

## 6. 排泄

### (1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

### (2) 排泄率

ビカルタミド 50mg 経口投与後 9 日目までの累積尿中及び糞中排泄率は、それぞれ 36%及び 43%であった。<sup>5)</sup>

**(3) 排泄速度**

該当資料なし

**7. トランスポーターに関する情報**

該当資料なし

**8. 透析等による除去率**

該当資料なし



## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当しない

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

#### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 小児 [本薬の薬理作用に基づき、男子小児の生殖器官の正常発育に影響を及ぼす恐れがある。また、本薬の毒性試験（ラット）において、雌性ラットで子宮の腫瘍性変化が認められている]
- (3) 女性 [本薬の毒性試験（ラット）において、子宮の腫瘍性変化及び雄児の雌性化が報告されている]

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

「V. 治療に関する項目 - 1. 効能又は効果」の項参照

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 5. 慎重投与内容とその理由

#### 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

肝障害のある患者 [本剤は肝臓でほぼ完全に代謝を受けるため、定常状態時の血中濃度が高くなる可能性がある]

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

#### 重要な基本的注意

- (1) 外国の臨床試験において、ビカルタミド製剤投与例でビカルタミド製剤との関連性が否定できなかった前立腺癌以外の死亡例が報告されている。そのうち心・循環器系疾患による死亡は9%未満であり、その主な死因は心不全、心筋梗塞、脳血管障害等であった。これら外国の臨床試験で報告された心・循環器系疾患による死亡率は、対照の去勢術群（16%未満）より低く、高齢者で一般に予期される死亡率の範囲内であったが、本剤を投与する場合は十分に観察を行い、慎重に投与すること。
- (2) 本剤は内分泌療法剤であり、がんに対する薬物療法について十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤による治療が適切と判断される患者についてのみ使用すること。

### 7. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素 CYP3A4 を阻害する。

## (1) 併用禁忌とその理由

該当しない

## (2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クマリン系抗凝血薬 ワルファリン等	クマリン系抗凝血薬の作用を増強するおそれがある。 プロトロンビン時間を測定する、又は、トロンボテストを実施するなど、血液凝固能検査等出血管理を十分に行いつつ、凝固能の変動に注意し、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。	<i>in vitro</i> 試験で蛋白結合部位においてワルファリンと置換するとの報告がある。
トルブタミド	トルブタミドの作用を増強するおそれがある。 但し、相互作用に関する報告症例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験でトルブタミドの代謝を阻害した。
デキストロメトルファン	デキストロメトルファンの作用を増強するおそれがある。 但し、相互作用に関する報告症例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験でデキストロメトルファンの代謝を阻害した。
主に CYP3A4 によって代謝される薬物 カルバマゼピン シクロスポリン トリアゾラム等	主に CYP3A4 によって代謝される薬物の作用を増強するおそれがある。 但し、相互作用に関する報告症例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験で CYP3A4 によるテストステロン 6β-水酸化酵素活性を阻害した。

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2) 重大な副作用と初期症状

#### 重大な副作用（頻度不明）

##### 1) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸

劇症肝炎、AST (GOT)、ALT (GPT)、ALP、γ-GTP、LDH の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的な肝機能検査の実施を考慮するとともに、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

##### 2) 白血球減少、血小板減少

白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

##### 3) 間質性肺炎

間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

#### 4) 心不全、心筋梗塞

心不全、心筋梗塞があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

### (3) その他の副作用

	頻 度 不 明
内 分 泌	乳房腫脹、乳房圧痛、ほてり
生 殖 器	勃起力低下
肝 臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、ALP 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、LDH 上昇
泌 尿 器	腎機能障害 (クレアチニン上昇、BUN 上昇)、血尿、夜間頻尿
皮 膚	掻痒、発疹、発汗、皮膚乾燥、脱毛、多毛、光線過敏症
精 神 神 経 系	性欲減退、頭痛、めまい、不眠、抑うつ状態、傾眠
循 環 器	心電図異常
消 化 器	便秘、食欲不振、下痢、悪心、嘔吐、口渇、消化不良、鼓腸放屁、腹痛
筋・骨格系	胸痛、骨盤痛
過 敏 症	血管浮腫、蕁麻疹
そ の 他	貧血、浮腫、総コレステロール上昇、中性脂肪上昇、倦怠感、無力症、疲労、高血糖、体重増加・減少、さむけ

#### (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

#### (5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

#### (6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 - 2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)、  
- 8. 副作用 (3) その他の副作用「過敏症」」の項参照

### 9. 高齢者への投与

ビカルタミド製剤の臨床試験成績から、高齢者と非高齢者において血漿中濃度及び副作用の発現に差はみられていない。しかし、一般に高齢者では、心・循環器系の機能が低下していることが多く、心・循環器系の有害事象の発現頻度が若年層より高いため、高齢者への投与の際には患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

### 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

該当しない

### 11. 小児等への投与

該当しない

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

該当しない

14. 適用上の注意

薬剤交付時：

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

15. その他の注意

外国において、呼吸困難が発現したとの報告がある。

16. その他

該当しない

# IX. 非臨床試験に関する項目

---

## 1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

## 2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

「VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）」の項参照

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製 剤	ビカルタミド錠 80mg 「JG」	劇薬、処方箋医薬品*
有 効 成 分	ビカルタミド	劇薬

※注意－医師等の処方箋により使用すること

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

室温保存

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

#### (2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 14. 適用上の注意」の項参照

・くすりのしおり：有り

#### (3) 調剤時の留意点について

該当しない

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

PTP：28錠（14錠×2）、30錠（10錠×3）、100錠（10錠×10）

### 7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニルフィルム・アルミ箔（PTP）、紙箱

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分：カソデックス®錠 80mg/OD錠 80mg（アストラゼネカ）

同 効 薬：フルタミド

### 9. 国際誕生年月日

該当しない



10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造販売承認年月日	承認番号
ビカルタミド錠 80mg 「JG」	2009年7月13日	22100AMX02156000

11. 薬価基準収載年月日

2009年11月13日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
ビカルタミド錠 80mg 「JG」	119387901	4291009F1195	621938701

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

# XI. 文献

---

## 1. 引用文献

- 1) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；  
ビカルタミド錠 80mg「JG」の加速試験
- 2) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；  
ビカルタミド錠 80mg「JG」の無包装状態での安定性試験
- 3) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；  
ビカルタミド錠 80mg「JG」の溶出試験
- 4) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；  
ビカルタミド錠 80mg「JG」の生物学的同等性試験
- 5) 第十八改正日本薬局方解説書 C-4254 (2021)、廣川書店

## 2. その他の参考文献

該当資料なし

## X II. 参考資料

---

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

## X III. 備考

### 1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

#### (1) 粉砕

##### 1. 保存条件

25°C±2°C/60%RH±5%RH、2週間・1箇月間（褐色ガラス瓶（開栓））

##### 2. 試験項目

性状、純度試験、定量試験

##### 3. 試験結果

	性状	純度試験		定量 <sup>注)</sup> (%)
		個々の最大値	合計 (%)	
保存開始時	白色	0.071	0.134	—
25°C/60%RH 2週間	変化なし	0.072	0.136	99.7
25°C/60%RH 1箇月間	変化なし	0.071	0.136	100.4

注) 試験開始時を100とした残存率で示した

#### (2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

##### 1. 試験方法

崩壊懸濁試験：

ディスペンサー内に錠剤1個を入れ、55°Cの温湯20mLを吸い取り5分間自然放置した。5分後にディスペンサーを90度で15往復横転し、崩壊・懸濁の状況を確認した。5分後に崩壊しない場合、さらに5分間放置後同様の操作を行った。10分間放置しても崩壊・懸濁しない場合、錠剤を粉砕してから同様に試験を行った。

通過性試験：

崩壊懸濁試験で得られた懸濁液を経管栄養チューブの注入端より2~3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8, 12, 14, 16, 18 フレンチ（以下Fr.とする）において通過する最小経管栄養チューブのサイズを確認した。

##### 2. 試験結果

崩壊懸濁試験結果

品目名	崩壊・懸濁状況
ビカルタミド錠 80mg「JG」	5分の時点で崩壊・懸濁した。

### 通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
ビカルタミド錠 80mg「JG」	8Fr.チューブを通過した。

8Fr. : 8 フレンチ 約 2.7mm <外径>

### 3.備考

本製剤は、マクロゴール 6000 を含有する製剤である。マクロゴール 6000 含有の製剤は、マクロゴール 6000 が 56～61℃で凝固するため温度を高くしすぎるとチューブに入る前に固まってしまう可能性が考えられる。

### 2. その他の関連資料

該当資料なし



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号